

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 生涯学習 | 歴史雑学 1. 水戸黄門の「黄門」とはどういう意味ですか？

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

歴史雑学 1. 水戸黄門の「黄門」とはどういう意味ですか？

徳川光圀が「黄門様」と呼ばれるわけをご存じの方は少ないと思いますが、黄門様とは、中納言の別称なのです。中納言は、朝廷から与えられる官名ですが、朝廷の官名はもともと唐の律令制にならってつくられたものです。その本場の中国で、門下省という役所の次官の役名を「黄門侍郎」といいました。中納言は太政官の次官にあたり、その職が黄門侍郎に相当するところから、中納言光圀公を「黄門様」といったのです。

なお、黄門様は水戸藩の二代藩主ですが、実際の徳川光圀が諸国をまわったということはありません。徳川の封建主義は偉い人を勝手に一人歩きさせるようなシステムにはなっていなかったのです。黄門漫遊の話は、封建制の悪政、重税に苦しむ人民が黄門様のような救世主の出現を期待して作り上げていった話なのでしょう。大岡越前守の人情裁きと同じようなものです。

歴史上の黄門様＝水戸光圀はなかなかの名君でした。文武を奨励し、藩士の地行制の整備や検地、領民統治に並々ならぬ政治手腕を発揮しています。その光圀の功績の中でもっとも有名なのが、『大日本史』の編纂という事業でしょう。光圀は江戸の藩邸に彰考館という学問所を設け、栗山潜鋒、三宅観樹らの学者を集めて、この仕事にあたりました。この彰考館の史官に佐々木助三郎という人がいました。これが助さんです。格さんは、水戸藩の小姓組に渥美格之進という名前が見られます。この二人は大日本史編纂の資料集めに各地をまわったということです。このあたりが黄門漫遊の元ネタなのでしょう。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.